

## 2 従業地・通学地集計結果

### (1) 昼間人口

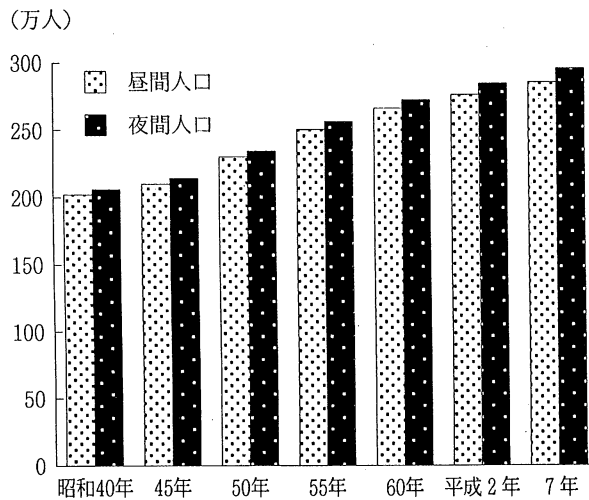
#### ア 総人口

平成7年国勢調査による茨城県の総人口2,955,530人から年齢不詳者を除いた夜間人口は2,954,018人（男1,475,426人，女1,478,592人）で，このうち通勤・通学のため県外へ流出する者が175,622人，県外から流入する者が74,547人となっており，県境をはさんで250,169人の移動が行われている。この結果，茨城県の昼間人口は夜間人口に対して101,075人少ない2,852,943人（男1,404,801人，女1,448,142人）となっている。（第11表，図－5）

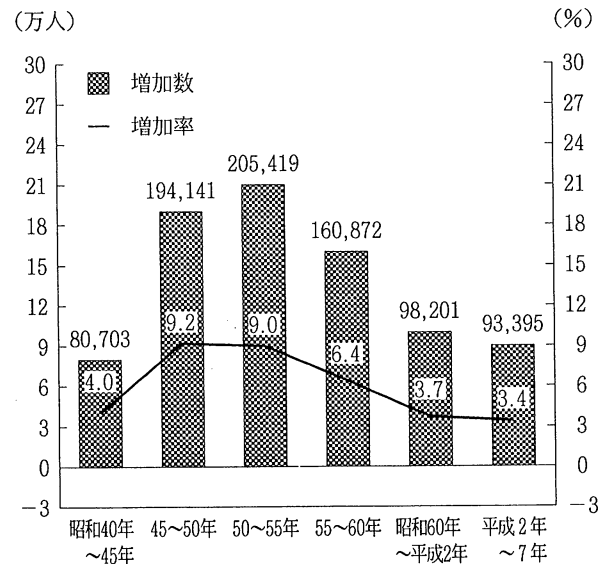
昼間人口の推移をみると，昭和35年～平成7年の35年間で827,823人増加している。各5年間の変化をみると，昭和35年～40年（増加数△4,998人，増加率△0.2%）は減少しているが，昭和40年～45年（同80,793人，同4.0%）から増加に転じ，昭和45年～50年（同194,141人，同9.2%），昭和50年～55年（同205,419人，同9.0%），昭和55年～60年（同160,872人，同6.4%），昭和60年～平成2年（同98,201人，同3.7%），平成2年～7年（同93,395人，同3.4%）とこの傾向は続いている。しかし，昭和55年～60年以降は，増加数及び増加率とも前回を下回っている。（第11表，図－6）

昼夜間人口比率（夜間人口100人に対する昼間人口の割合）は昭和35年以来一貫して100.0未満であり，昼間人口が夜間人口より少ないことを示している。また，この推移をみると，毎回緩やかに低下しており，平成7年（96.6）も平成2年（97.1）に比べ0.5ポイント低下している。（第11表）

図－5 昼間及び夜間人口の推移  
（昭和40年～平成7年）  
—茨城県—



図－6 昼間人口の増加数，増加率  
（昭和40年～平成7年）  
—茨城県—



イ 地域・市町村別人口

昼間人口を県内5地域別にみると、県南地域が876,359人（総人口の30.7%）と最も多く、次いで県北地域が646,217人（同22.7%）、県西地域が550,055人（同19.3%）、県央地域が508,822人（同17.8%）、鹿行地域が271,490人（同9.5%）となっている。これを平成2年に比べると、県南地域が58,615人（増加率7.2%）と最も増加数が多く、次いで県央地域が13,076人（同2.6%）、県西地域が8,546人（同1.6%）、鹿行地域が7,572人（同2.9%）、県北地域が5,586人（同0.9%）それぞれ増加している。さらにこれを昭和60年～平成2年の増加数及び増加率と比べると、県北地域を除き他の4地域は増加数及び増加率とも低下している。（第12表、表-7）

昼夜間人口比率では、県央地域及び鹿行地域が100.0を超えており、昼間人口が夜間人口より多いことを示している。また、平成2年より高くなったのは、県央地域のみである。（第12表、表-7）

表-7 昼間人口（平成2年，平成7年）－県・地域－

県・地域	平成2年			平成7年			増 加			
	昼間人口	構成比 (%)	昼夜間 人口 比率	昼間人口	構成比 (%)	昼夜間 人口 比率	昭和60年～平成2年		平成2年～平成7年	
							増加数	増加率 (%)	増加数	増加率 (%)
茨城県	2,759,548	100.0	97.1	2,852,943	100.0	96.6	98,201	3.7	93,395	3.4
県北地域	640,631	23.2	97.4	646,217	22.7	97.1	3,998	0.6	5,586	0.9
県央地域	495,746	18.0	102.8	508,822	17.8	103.6	13,651	2.8	13,076	2.6
鹿行地域	263,918	9.6	101.4	271,490	9.5	100.9	8,074	3.2	7,572	2.9
県南地域	817,744	29.6	93.3	876,359	30.7	92.4	58,933	7.8	58,615	7.2
県西地域	541,509	19.6	95.8	550,055	19.3	94.9	13,545	2.6	8,546	1.6

次に、市町村別昼間人口をみると、市部では20万人以上が水戸市(291,296人)及び日立市(218,279人)の2市、10万人以上20万人未満がつくば市(169,794人)、土浦市(151,405人)及びひたちなか市(141,534人)の3市、5万人以上10万人未満が7市、3万人以上5万人未満が7市、3万人未満が1市となっている。（第12表、表-8）

郡部では、5万人以上が神栖町(53,469人)及び総和町(50,435人)の2町、3万人以上5万人未満が7町村、1万人以上3万人未満が35町村、1万人未満が21町村となっている。（第12表、表-8）

表－8 昼間人口の多い（少ない）市町村

順位	上位 10 市 町 村		下位 10 市 町 村	
	市 町 村 名	昼間人口 (人)	市 町 村 名	昼間人口 (人)
1	水 戸 市	291,296	七 会 村	2,233
2	日 立 市	218,279	御 前 山 村	3,890
3	つ く ば 市	169,794	美 和 村	4,007
4	土 浦 市	151,405	里 美 村	4,175
5	ひたちなか市	141,534	緒 川 村	4,524
6	下 館 市	68,708	水 府 村	5,237
7	鹿 嶋 市	68,378	桂 村	5,410
8	取 手 市	67,242	牛 堀 町	5,419
9	竜ヶ崎 市	63,249	瓜 連 町	6,873
10	神 栖 町	53,469	桜 川 村	7,143

また、昼夜間人口比率では神栖町が120.2と最も高く、次いで水戸市（118.7）、五霞村（117.9）、土浦市（114.5）、鹿嶋市（112.9）の順となっており、上位13市町村までが100.0を超えている。一方、最も低いのは利根町（60.1）で、次いで、莖崎町（73.0）、伊奈町（73.1）、瓜連町（74.9）の順となっている。（第12表、表－9、図－7）

表－9 昼夜間人口比率の高い（低い）市町村

順位	上位 10 市 町 村		下位 10 市 町 村	
	市 町 村 名	人口比率	市 町 村 名	人口比率
1	神 栖 町	120.2	利 根 町	60.1
2	水 戸 市	118.7	莖 崎 町	73.0
3	五 霞 村	117.9	伊 奈 町	73.1
4	土 浦 市	114.5	瓜 連 町	74.9
5	鹿 嶋 市	112.9	牛 久 市	75.4
6	日 立 市	109.6	十 王 町	76.3
7	つ く ば 市	108.8	桂 村・水 府 村	77.9
8	総 和 町	107.2	藤 代 町	78.4
9	水 海 道 市	106.0	守 谷 町	79.0
10	下 館 市	104.0	取 手 市	79.6

注) 県平均は96.6

## (2) 通勤・通学人口

### ア 従業地・通学地による就業者・通学者数

平成7年の15歳以上就業者(1,515,816人)の従業地についてみると、自宅外での就業者が1,219,507人となっており、また、15歳以上通学者は205,303人である。したがって、自宅外を従業地・通学地とする15歳以上の通勤・通学者は1,424,810人となっている。(表-10)

この通勤・通学者のうち職場・学校が自分の住んでいる市町村内(以下、「自市町村内」という。)にある者は730,751人(通勤・通学者数の51.3%)、職場・学校が自分の住んでいる市町村外(以下、「他市町村」という。)にある者は694,059人(同48.7%)となっている。さらに、他市町村へ通勤・通学している者のうち、県内の他市町村へ通勤・通学している者は519,024人(同36.4%)、県外の他市町村(以下、「他県」という。)へ通勤・通学している者は175,035人(同12.3%)となっている。(表-10)

通勤・通学者数を平成2年と比べると、通勤者が146,132人(増加率13.6%)増加しているのに対し、通学者は4,564人(減少率2.2%)減少している。また、構成比では、自市町村内が52.0%から51.3%へ0.7ポイント低下しているのに対し、他市町村は48.0%から48.7%へ0.7ポイント上昇しており、通勤・通学の遠距離化が進んでいることがわかる。(表-10)

次に、通勤者を従業地別にみると、自市町村が637,793人(通勤者数の52.3%)、県内の他市町村が438,563人(同36.0%)、他県が143,151(同11.7%)となっており、一方、通学者は自市町村内が92,958人(通学者数の45.3%)、県内の他市町村が80,461人(同39.2%)、他県が31,884人(同15.5%)となっている。(表-10)

### イ 従業地による就業者数

従業地による15歳以上就業者数の推移を昭和50年からみると、自市町村内のうち自宅での就業者数は、農林漁業就業者数や家族従業者数の減少などにより減少を続けており、就業者数に占める割合も、昭和50年(42.7%)から平成7年(19.5%)までの20年間に半減している。これに対し、自宅外での就業者数の割合は、一貫して上昇している。(表-11)

一方、県内の他の市町村へ通勤している就業者数及び他県へ通勤している就業者数は、ともに増加を続けており、就業者数に占める割合も、昭和50年から平成7年までの20年間に、県内他市町村は12.8ポイント、他県は3.9ポイント、それぞれ上昇しており、通勤圏が他の市町村や他県に広がっていることを示している。(表-11)

表-10 従業員・通学地別15歳以上通勤・通学者数（平成2年，平成7年）—茨城県—

従業員・通学地	平成2年		平成7年		平成2年～平成7年	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	増加数	増加率(%)
通勤・通学者	1,283,242	100.0	1,424,810	100.0	141,568	11.0
自市町村内	666,866	52.0	730,751	51.3	63,885	9.6
他市町村	616,376	48.0	694,059	48.7	77,683	12.6
県内	467,541	36.4	519,024	36.4	51,483	11.0
他県	148,835	11.6	175,035	12.3	26,200	17.6
通勤者	1,073,375	100.0	1,219,507	100.0	146,132	13.6
自市町村内	570,543	53.2	637,793	52.3	67,250	11.8
他市町村	502,832	46.8	581,714	47.7	78,882	15.7
県内	378,681	35.3	438,563	36.0	59,882	15.8
他県	124,151	11.6	143,151	11.7	19,000	15.3
通学者	209,867	100.0	205,303	100.0	△ 4,564	△ 2.2
自市町村内	96,323	45.9	92,958	45.3	△ 3,365	△ 3.5
他市町村	113,544	54.1	112,345	54.7	△ 1,199	△ 1.1
県内	88,860	42.3	80,461	39.2	△ 8,399	△ 9.5
他県	24,684	11.8	31,884	15.5	7,200	29.2

表-11 従業員地別15歳以上就業者数の推移（昭和50年～平成7年）—茨城県—

従業員地	昭和50年	55年	60年	平成2年	7年
就業者数	1,141,449	1,241,868	1,325,340	1,430,686	1,515,816
自市町村内	895,235	909,433	906,680	927,854	934,102
自宅	487,090	451,029	392,199	357,311	296,309
自宅外	408,145	458,404	514,481	570,543	637,793
県内他市町村	183,595	248,416	317,896	378,681	438,563
他県	62,619	84,019	100,764	124,151	143,151
構成比(%)					
就業者数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
自市町村内	78.4	73.2	68.4	64.9	61.6
自宅	42.7	36.3	29.6	25.0	19.5
自宅外	35.8	36.9	38.8	39.9	42.1
県内他市町村	16.1	20.0	24.0	26.5	28.9
他県	5.5	6.8	7.6	8.7	9.4

次に、市町村別に15歳以上就業者数の従業地別割合をみると、自宅外の自市町村で従業している就業者数の割合が最も高いのは、日立市(77.7%)で、以下、鹿嶋市(67.0%)、神栖町(66.1%)、水戸市(65.8%)、つくば市(58.1%)の順となっており、上位7市町で50.0%を超えている。逆に最も低いのは旭村(12.5%)で、以下、利根町(15.2%)、北浦村(15.6%)の順となっている(第15表、第16表、表-12)。

県内の他の市町村へ通勤している就業者数の割合が最も高いのは、十王町(65.6%)で、以下、瓜連町(58.6%)、千代田町(56.5%)、那珂町(53.9%)、内原町(51.0%)の順となっており、上位5町で50.0%を超えている。逆に最も低いのは五霞村(6.2%)で、唯一10.0%を下回っており、以下、日立市(11.9%)、大子町(12.5%)の順となっている。(第15表、第16表、表-12)

他県へ通勤している就業者数の割合が最も高いのは利根町(51.3%)で、唯一50.0%を超えており、以下、取手市(48.1%)、藤代町(43.2%)、五霞村(38.9%)、古河市(33.7%)の順になっており、逆に最も低いのは常陸太田市の0.2%で、以下、金砂郷町、旭村、常北町、水府村の0.3%、日立市及び十王町の0.4%の順となっている。(第15表、第16表、表-12)

表-12 就業者数の従業地別割合の高い(低い)市町村  
(自宅外の自市町村)

順位	上位10市町村		下位10市町村	
	市町村名	割合(%)	市町村名	割合(%)
1	日立市	77.7	旭村	12.5
2	鹿嶋市	67.0	利根町	15.2
3	神栖町	66.1	北浦村	15.6
4	水戸市	65.8	桂村	16.6
5	つくば市	58.1	瓜連町	17.1
6	ひたちなか市	53.5	十王町	17.8
7	北茨城市	52.0	藤代町	17.9
8	下館市	48.5	茎崎町	18.0
9	土浦市	48.3	金砂郷町	18.4
10	総和町	47.8	大洋村	20.6

注) 県平均は42.1%

(県内他市町村)

順位	上位10市町村		下位10市町村	
	市町村名	割合(%)	市町村名	割合(%)
1	十王町	65.6	五霞村	6.2
2	瓜連町	58.6	日立市	11.9
3	千代田町	56.5	大子町	12.5
4	那珂町	53.9	取手市	16.0
5	内原町	51.0	結城市	16.7
6	新治村	49.0	神栖町	16.8
7	千代川村	48.4	総和町	17.3
8	常北町	48.3	鹿嶋市	17.4
9	常陸太田市	48.1	水戸市	19.1
10	玉里村	47.7	古河市	19.3

注) 県平均は28.9%

(他 県)

順位	上位 10 市 町 村		下位 10 市 町 村	
	市 町 村 名	割 合 (%)	市 町 村 名	割 合 (%)
1	利 根 町	51.3	常 陸 太 田 市	0.2
2	取 手 市	48.1	金 砂 郷 町	0.3
3	藤 代 町	43.2	旭 村	0.3
4	五 霞 村	38.9	常 北 町	0.3
5	古 河 市	33.7	水 府 村	0.3
6	守 谷 町	33.5	日 立 市	0.4
7	茎 崎 町	32.3	十 王 町	0.4
8	牛 久 市	32.0	山 方 町	0.5
9	竜 ヶ 崎 市	28.5	鉾 田 町 ほか	0.6
10	伊 奈 町	25.4	2 町	

注) 県平均は9.4%